

ピアノと名句の巧みな出会い (柏木俊夫「芭蕉の奥の細道による気紛れなパラフレーズ」)

～名作に光を当てたスタインウェイ・アーティスト浦山純子のライフワーク～



当企画で取り上げるピアノ組曲「芭蕉の奥の細道による気紛れなパラフレーズ」は、日本古来の文学と西洋の音楽とが見事にコラボレーションした逸品。戦後の音楽界を支えた作曲家・柏木俊夫氏(1912-1994)が「奥の細道」の俳句からインスピレーションを受け、それぞれ2～3分ほどにまとめた作品群です。日本の美しい景色への想いを馳せるような深い旅情に溢れ、みちのくの旅路を辿る芭蕉の俳句がピアノで巧みに描き出された全17曲から構成されています。

俳句が芸術的なピアノ作品として生まれ変わることは類がなく、その実演ともなると、大変稀有な機会になります。

演奏するのは、スタインウェイ・アーティストで東北生まれのピアニスト・浦山純子氏。浦山氏は知人を介して同曲の存在を知り、また柏木氏のご子息からも直接のコンタクトがあったこと、そして浦山氏の恩師に当たる故・安川加寿子先生が同曲の一部を初演された経緯を持つ運命的な縁が重なり、「ライフワーク」として取り上げることを決意しました。

同曲は浦山氏の手によって日の目を見ることとなり、2012年にリリースしたCDは「文化庁芸術祭賞」にノミネートされるなど、その画期的な取り組みが高く評価されています。

二部構成の公演前半では、華やかな西洋音楽を代表する「ピアノイズムへの誘い」として、馴染み深いクラシックの名曲を取り上げます。浦山氏が得意とするショパンやラフマニノフの他、ご希望にお応えするプログラム構成も可能です。公演中は、作品の紹介はもとより芭蕉の俳句を読み上げてから演奏するなど、音楽への理解を促す浦山氏のトークも大きな魅力の一つとなります。

日本と西洋の文化をピアノ1台で自由に行き来する本公演。企画性・独創性が高く、じっくりとお楽しみいただけるソロリサイタルです。

Program

[第一部]

麗しく躍動的なピアノ・ソロで、ショパン、ラフマニノフ、リストなど、クラシックの名作をお楽しみいただけます。

[第二部]

柏木俊夫「芭蕉の奥の細道による気紛れなパラフレーズ」より

《CD》

「Voyage」



MECO-1011
 (株)ソニー・ミュージックダイレクト
 発売 2012年6月
 定価 ¥3,000

Track

1. 「草の戸も住み替はる代(よ)ぞ雛の家」 <江東区深川>
2. 「行く春や鳥啼き魚の目は涙」 <足立区千住>
3. 「入りかかる日も絲遊の名残かな」 <埼玉県室の八嶋>
4. 「あらたふと青葉若葉の日の光」 <栃木県日光山>
5. 「野を横に馬ひきむけよほととぎす」 <栃木県那須>
6. 「落ち来るや高久の宿のほととぎす」 <栃木県那須>
7. 「卯の花をかざしに関の晴着かな(曾良)」 <福島県白河>
8. 「風流のはじめや奥の田植えうた」 <福島県須賀川>
9. 「箆も太刀も五月にかざれ紙織(かみのぼり)」 <福島県飯塚>
10. 「夏草やつはものどもが夢の跡」 <岩手県平泉>
11. 「五月雨の降りのこしてや光堂」 <岩手県平泉>
12. 「閑さや岩にしみ入る蟬の声」 <山形県立石寺>
13. 「五月雨をあつめて早し最上川」 <山形県最上川>
14. 「暑き日を海に入れたり最上川」 <山形県酒田>
15. 「終宵秋風聞くや裏の山(曾良)」 <石川県全昌寺>
16. 「散る柳あるじも我も鐘を聞く」 <石川県金沢>
17. 「荒海や佐渡に横たふ天の河」 <新潟県越後路>

《プロフィール》

浦山純子 Junko Urayama(ピアノ)



4歳よりピアノを始め、桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業後、ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院に留学。

1995年ラジヴィーウ国際ピアノコンクール優勝、及び最優秀ショパン賞(ポーランド)、1998年ボリーノ国際ピアノコンクール最高位(イタリア)をはじめとする数々の賞を受賞。

1996年よりロンドンを本拠地とし、名門ウイグモアホールにてデビュー。ヨーロッパ各国でソロリサイタル、コンチェルトから室内楽に至るまで幅広く活動し、2002年には、ウラディミール・アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団とグリーグのピアノ協奏曲を共演。同年フィルハーモニア管弦楽団に再び招かれ、チチェスター音楽祭にて演奏。

2005年秋より東京に拠点を移し、銀座・王子ホールにてデビュー。雅楽師・東儀秀樹氏とのジョイントコンサート、ホロヴィッツのピアノによるスタインウェイ・ガラコンサート、お話音楽館など、多彩な企画を含めた演奏活動を展開中。スタインウェイ・ジャパン(株)の“Young Virtuoso Series”のアーティストとしても全国各地でコンサートを行ったほか、国内外で教育・福祉関係のためのチャリティ活動にも力を入れている。また、2009年よりスタートさせたリサイタル・シリーズ「心の旅への誘(いざない)」は、「奥の細道」から着想された『芭蕉の奥の細道による気紛れなパラフレーズ』を取り上げる独創的な企画として注目を集めた。2012年6月には、念願であった本作品の全曲録音CDとして〈VOYAGE ヴォヤージュ〉をソニー・ミュージックダイレクトより発売。CDはこれまでに、2003年〈Piano Recital ピアノリサイタル〉、2005年〈Fantasie ファンタジー〉、2007年〈Soiree ソワレ〉(いずれもイギリス・シンフォニカレコード)をリリースしている。浅野繁、奥村洋子、故・安川加壽子、アンジェイ・ステファンスキ、スラミタ・アロノフスキ各氏に師事。スタインウェイ・アーティスト。

【浦山純子オフィシャルWEBサイト】 <http://www.junkourayama.com/>